

ちよ多

第 1 3 号

平成 1 4 年 1 月
千 代 田 岳 精 会 弘 報

平成十四年度岳精会指標

平 和

十三年度昇伝、準師範昇格
おめでとうございます

奥 伝	丸の内第二	岡根	光風
準師範	丸の内女子	菅原	琴風
	丸の内第一	魚井	啓山
	丸の内第一	江口	越山
	丸の内第一	窪田	香山
	丸の内第二	元広	恵山
東陽町	荻	裕山	敬称

午年（馬）に因んで

会長 飯田 龍麿

明けまして

おめでとうございます。

昨年は、世界全体に暗雲漂う、千年紀の始めの年になってしまいました。茲に人類は英知を絞って、その解決に向かわねばなりません。日本も又皇孫内親王誕生の明るいニュースが歳末の巷を駆け抜けたけれども、政治に経済に又社会に山積する問題は難問ばかりです。私は詩吟愛好家は豊かな経験を活かし一臂の力を貸さねばと考えます。

さて新年は午の年、馬に因んだ詩を想い起こして見ると、先づは伊達政宗の「興を遣るの吟」が浮ぶ。「馬上青年過ぐ、時平らかにして白髪多し」と。駿馬と若武者、今は白髪。若き頃は「天馬空を行く」勢い、今はペガサスならず、もはや驚馬である。しかし驚馬も有用にして元氣。「驢馬は一日にして千里を行く」という。驚馬は到底一日に千里は及ばぬが、「驚馬と雖も、また十駕すれば驢馬に追いつく」と。遅い馬でも、十日間走れば駿馬に追いつく。一日一日を丁寧にする驚馬の心境こそ大切と存じます。

午は十二支の七番目。方角では南、時刻は真昼の十二時、季節は

夏至である。

人と馬との関り合いは深く、若干、諺を挙げると。

- ① 馬が合う。（気が合う）
- ② 馬には乗ってみよ、人には添うてみよ。
- ③ 馬の背を分ける（夕立）
- ④ 馬の耳に風（馬耳東風）
- ⑤ 馬の耳に念仏（いくら聞かせても解からぬ）
- ⑥ 馬は馬づれ
- ⑦ 馬を牛に乗り換える（悪い方へ）
- ⑧ 馬を鹿に通す

胡馬北風に嘶く、今年の馬は嘶くか。

昨年一年間、吟友の発したキーワードに「行く處があつて、やる事があれば幸せだ」。

I 先生は言われる。

教場があつて詩吟を朗々と吟じ、友と語って帰る。大いに楽しんで充実がある。

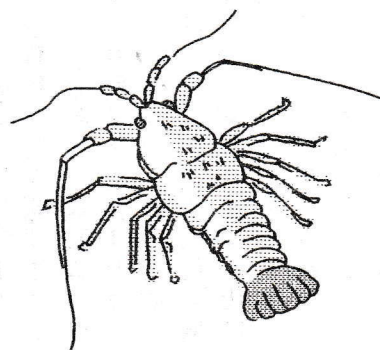
次は「若く見られています」

此れは別の I 先生。

何處へ行つても、お若いですね、お元気で聲が若々しいと言われる。心なしか吟以外の集まりに出ると吟友が若々しい。

三つ目は、或る吟友の奥さん曰く「うちの人は詩吟の日は、朝か

らソワソワ、イソイソとして、ぶっ飛んで行く」。そして道で会つても、会社で会つても「今日は詩吟です」と明るく嬉しそう。やっけない人からは羨ましい。今年もご自愛の上楽しく。



平成十四年度昇伝審査指定吟題

初伝 睡気偶成 王 守仁

晁卿衡を哭す 李 白

中伝 興を遣るの吟 伊達 政宗

阿蘇山 安達 漢城

短歌

大海の 源 実朝

露おかぬ 太田 道灌

奥伝 岳精会教場の詩 松口 月城

立秋の雨 徳川 光圀

俳句

越えてゆく 種田山頭火

荒滝や 夏目 漱石

琵琶湖上の作 室 鳩巢

皆伝 春まだ浅く（二） 石川 啄木

副会長 磯田 真風

おめでとうございます。

温故知新と言う訳ではありませんが、年頭に当たり千代田岳精会の来し方、行く末を述べて新年の挨拶に代えたいと思います。

會員も百五十名余となり岳精会
の中では押しも押されもせぬ屈指
の存在となつております。誠に嬉
しい限りです、皆々様の並々なら
ぬご協力の賜と思います。

教場設立当時の十七年前、こんなことがありました。

教場にて待ちおるも、生徒待てど暮らせど誰一人も来ない、仕方なく独り吟じて帰路。(申訳けありませんでした)

京浜合同教場の発布

代田教場ですと名乗ったら、受付で、そんな教場があったかな？と言われた。（口惜しい）

無い（支部長、会長、本部役員は指定席あり）寂しさと口惜しさが入り交じって、早く教場を大きくせねばと心に誓う。

昼休みの時間も、先生に覚え難い節調を教えて頂く（只管吟々：我尽を許して、よく辛抱して教えて戴きました。感謝！

師範三十余名、各部門の組織も活
発な自主活動、教場長、リーダー
会員一体となって会の運営がなさ
れているのを見るにつけ、誠に今
昔の感に堪えません。

向けての総仕上げの準備に入ります。会員二百名は指呼の間、更にはキメ細かく各種研修の充実、吟友の交流を図ります。

吟樂人生萬歲！

今年も亦々宜しくお願いします



盛会裏に本年度予定を終了

会員の吟力向上と、伴奏者の育成を狙いとして本年度実施のコンダクター研修会は、四回にわたり磯田副会長を講師として行なわれ

温習会では全員の合奏で本部副

幹事長和田精榮先生、婦人部長前澤龍淳先生、飯田会長の吟詠の伴奏をつとめ、見事なハーモニイが披露されました。

今後、自宅復習での効果による吟詠のレベルアップと、教場の伴奏に講習効果が期待されています
なお、更に技術の向上を目指して本年も年間三回の実施を予定しています。



清水教場 山手 英泉

凡そ樂器なるものに触れた事の無い我が身が、詩吟伴奏のコンダクターなるものと初めて接し、吟の醸し出す詩情とピッタリ合致したその音色に大変魅了されてしまいました。

三月から四回行なわれた研修会には多数の受講者が集い、磯田副

会長を始め諸先生の熱心な手解きにより、吟あり演奏ありで楽しい修練の日々でありました。

そしてこの成果を温習会で発表することとなり、更に特訓を重ねて、当日は磯田先生指揮のもと三十名程の大合奏となりました。本部から和田・前澤両先生をお迎えしての吟詠は、短歌・俳句・絶句と多種の内容で、名(迷)調子かどうかご披露出来たのではと、大いに自信が持てて参りました。

ご指導戴いた諸先生への感謝と、ご期待に応えるべく、来年は更なる飛躍をしたいと参加者一同夢を大きく膨らませております。

岳精流日本吟院全国吟道大会

今年の大会は例年より二カ月早く四月廿一日に開催されます。

一般合吟は、城野静軒作「舟中子規を聞く」と決まりました。

合吟コンクールは、初めて女子

選抜チームが、李白作「晁卿衡を
哭す」で挑戦します。優勝を目指

し、全ての点で他チームを凌駕できるよう、一月より厳しいレッスンに入ります。

今年は宗家より、大会を彩る自主企画番組を千代田と井田の二岳精会が担当するよう要請を受け、岩崎教場長を責任者としたプロジェクトチーム（全教場参加）が年末から検討を始めました。

えと
みづのえうま

八十四歳の午歳を迎えて

昨年十月末、私は妻と共に四泊五日の予定で白馬村に嫁いでいる孫娘を訪ねる事にした。久しぶりに中央高速を快走し、夕刻到着した。白馬の山々に囲まれた清々しい空気の中で、両親と若夫婦が楽しくペンションを営んでいる。

なつかしい孫娘の元氣な笑顏を見てほっとした。早いもので十二月下旬には曾孫が見られる様で楽しみだ。ご両親の手厚い歓迎をうけ、近くの倉下温泉に案内されゆつくりと疲れがとれる。

翌日から早速油絵を描きに出る紺碧の空の下北アルプス連峰と山麓の紅葉は素晴らしく、漢詩「山居」を吟じながら描く、この上なく充実した日々であった。山のダム湖や溪谷の紅葉の美しさ感動、五日間の旅を孫の家族に別れを惜しみつつ家路についた。

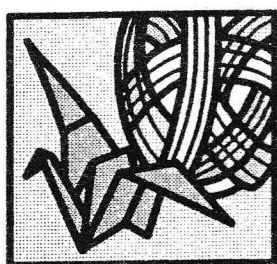
丸の内第一教場 山口 朱泉

月日の流は早く、今年は午年を迎えます。まずはこのように丈夫

に育てて下った両親に感謝し、また日本の国の豊かな恵みにも感謝しなくてはなりません。国全体が苦しく、貧しい戦時中、戦後を少女時代として過ごした私は、現在の物質万能時代や、飽食の時代等とても考えられませんでした。

今の社会を見渡してみますと、贅沢文明病と言える、生活習慣病の増加、車社会に頼りすぎた体力の衰え、そして人間の心にまでもひずみを見るのです。私達はもう一度、辛苦に満ちた時の歩みから得た大切なものを生かしていかなければならぬと思います。

私は飽食を控え、速歩運動をこなし、常に知的フレッシュを求めて、若々しい人間でありたいと、常に思っています。



丸の内第二教場 本多 弘泉

千支で六回りとなるこの機会に
私自身と周りの変化を考えてみま
した。生れ年は世界的恐慌の最中
小学校入学とともに日中戦争に突

入し、中学入学間まゝ日米開戦となった。

戦況不利の中長兄戦死の報、そして東京大空襲で家が全焼し、幸い怪我は無かったが焼け跡生活半年も経たぬうち終戦となり、戦後の大混乱の中で中学、大学を卒業し、縁あって明治生命に入社し、大過なく定年を迎えました。

生来の無趣味、不精者の私が入社以来付き合いのあった当教場の岩崎先生のお誘いを受け、初めは暇つぶしの軽い気持ちでしたが、回を重ねる毎に、最近はや吟を習得する喜びを感じはじめました。

これからも吟を通じて「真善美」に一步でも近付きたく思いますので、皆様の一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

鍊水教場
樋沢
桃泉

二〇〇二年の新春を元気で迎えることが出来てこと、詩吟と言うすばらしい生き甲斐に出会えたことに、喜びを噛み締めております

今から十二年前の私は、病と戦う毎日でした。そんな時、気功と言う元気のもとを頂き、健康を取り戻しました。そして七年前、気功の仲間の菅原克山さん（現教場長）に詩吟を紹介され、飯田会長井手先生を始め多くの先生方の指導のもと、昨年は「桃泉」と名

前を頂き良い年でありました。

今年は、還暦という大きな節目の年「山」という目標に向って、私自身の吟を磨き、前進して行きたいと思います。感謝。

平成十四年本部及び

千代田岳精会行事日程

三月十日 宗家全国研修会

(H)

四月廿一日 本部全国吟道大会

(日)

五月十八日 昇伝、昇段審査

(十)

六月九日 宗家全国研修会

(日)

八月廿五・本部夏期師

六日

(日・月)

八月廿九日 自主研修会

(木)

十一月三日 奥伝以上及び

(祭)

十一月十日 全国吟剣詩舞道大会

(日)

十二月七日 溫習會（会場後報）

(十)

十二月
宗家全国研修会

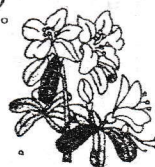
白

◇全国吟詠コンクール地区予選は参加場所により日程が異なるため個別に連絡します。

◇コンダクター研修会 後報

本番でこれ迄の最高の合吟が出
来た我々は、厳しいレッスンで得
たものを、日頃の練習で更に磨き
をかけ、女子チームの上位独占到

服装の点検、登壇準備、「三二番石鎚山、岳精流日本吟院男子」のアナウンスと共に胸の高鳴りをお



今の勉強になるから全国大会の

と安易なものかと感じて、決して良いことはない。もっと努力して真の優勝を入手する第一歩だ。

一年間のレッスンの集大成



本部より来賓として和田精栄副幹事長、前澤龍淳婦人部長の両先生をお迎えした今年の会場は、中野ゼロホールの小ホールでした。

小ホールとは申せ、昨年の視聴覚教室と違い客席数五五〇席の本格的会場、過去最大の出席者百十八人の五倍に近い収容数で、堂々とした広いステージとゆったりした座席で好評でした。司会は東陽町渋谷辰泉、丸の内第二太田翠山、清水宮武保義の三氏です。

岩崎丸の内第二教場長の開会のことは、有馬幸雄氏（ハザマ）の会詩合吟で始まった会は、新しいプログラムが盛り沢山でした。

独吟発表は全員が伸び伸びと吟じ、来賓の両先生から高い評価を戴き、飯田会長も「年齢には関係なく、一年前より格段に上達した。詩情が吟に出て、声が段々と下から出てきた」と評されました。

全国吟剣詩舞道大会で惜しくも優勝は逃したが、堂々の入賞となつた十三名のパワー溢れる凱旋合吟「石鎚山」。来賓の両先生、飯田会長の吟詠を伴奏したコンダクター習得者合奏、八十歳以上の寿栄者の力強い合吟頼山陽の「不識庵機山を撃つのに題す」と加藤鍊山氏（鍊水）の見事な剣舞は初

のご披露でした。

和田副幹事長は千代田が教場として所属していた京浜合同教場の長。独立して急激に成長拡大した千代田への親心のような思い入れを、又前澤婦人部長は流統における千代田の占める大きさと期待をご挨拶で述べられました。

ご来賓、会長・副会長、教場長副教場長の格調高い吟詠を堪能し、締め括りは大竹和泉氏（神田）先導の大合吟「富士山」、

恒例の磯田副会長の閉会の言葉は千代田岳精会のこれからへのメッセージでした。

終了後の懇親会は、変わって西川宗泉氏（清水）の力強い司会で全千代田の勢揃い、大変な盛上がりの中定刻となり町田湧泉氏（神田）の閉会挨拶、中川睦泉氏（ハザマ）先導の万歳三唱でお開き。

毎回の事です。が企画の研修部門、業務委員会、設営進行の事業部門、親和部門、婦人部に加えて今回は全教場が役割を分担して運営されました。ご苦労さまでした。

会場設備の都合で鍊水教場の特技IT技術を駆使したスライド投影の背景は残念ながら出来ませんでした。

次の機会が待たれます。

温習会の余韻

神田教場 福島 起山

神田教場の吟友は主として合吟・独吟ともCDで挑戦。また女子四名に温習会の感想を伺うと、良かった点は①小ホール会場②婦人部の合吟③コンダクターの合奏、それに④お互い一年間での吟のレベルアップを確認しあえたことという。

逆に工夫・改善の余地では総合司会の必要性を痛感、声だし室の件とか、休憩時の指示など予めあれば、もっと良かったとの声も。それにしても、私自身、今回の温習会は飯田会長のお話のように「明るく、爽やか、元気に」出来たと思います。三年後に千代田は廿周年を迎えるという。お互い元気で今後も頑張っていきたい。

千代田温習会に参加して

ハザマ教場 村松 長治

今年二月ハザマ教場に入会、飯田会長、鈴木教場長のご指導のもと諸先輩の援助を受けつつの今日、初参加の緊張と不安は年齢に係ありません。定刻通り開会、先ず岳精会の組織統制の素晴らしさに、改めて会員としての誇りを自覚しました。諸事進行し無伝の部の独吟、私も夢中で終わり、安堵と反省で着席した次第です。

進んで女子の合吟、なんと美しいこと。有伝者はさすがに上手で年期が入っています。

またコンダクター合奏に精を出しておられる皆様、天下の前澤先生のバック演奏は見事でした。

寿栄者の合吟の張りりと加藤鍊山先生の剣舞に古来の雄姿を偲びました。進行に従い教場長、副教場長の吟詠はいつまでも心に残ります。今後ご指導宜しくお願い致します。

締めは良し、会長・副会長、来賓先生の吟詠、まさに天下に誇る岳精流。吟韻は消えませんが。

定刻閉会後は懇親会、日頃お眼にかかれないうち々との懇談等、有意義な一日でした。

確実に力強く成長

清水教場 井手 孟雄

昨年に続き今年の温習会の中野ゼロホール。小ホールとは申せ、本格的な堂々としたホールだ。

会場にはいると舞台正面には老松を描いた鏡板が張られ、上部には墨痕淋漓「平成十三年千代田岳精会温習会」の書が踊る。飯田会長ご自身の揮毫と聞く。

定刻岩崎先生の開会のことばで始まったプログラムは、渋谷・宮武・太田三氏の司会で手際よく進められた。日頃の成果を見せんと各位の張りきりも大変なもの。緊

張で途中絶句・やり直しもあり会場に和やかな笑いが起こる。色々あったものの昨年より力強い吟が多かった。

後半今年の目玉は、寿栄者全員による合吟と加藤鍊山氏による剣舞。皆さん元気そのものには脱帽。又全国の岳精会の中でも初めてというコンダクター大合奏。磯田副会長指導のもと、鋭意研修を重ねて来た成果の発表があった。

最後に各教場長・副教場長の吟詠並びに会長・副会長・ご来賓の方々のご挨拶と吟詠をいただいて幕を閉じた。

会長のご挨拶では「皆この一年で一段と進歩した。声がよく出るようになり诗情もある」とお褒めの言葉があったが、自らを顧みるとまだまだ精進の必要を感じる。

皆で努力し、磯田副会長も言われたように廿周年には二百名の会員を擁する会にしたいものである。

感動の温習会について

丸の内第一教場 大杉 緑泉

師走早々に温習会が開催されました。今回はコンダクターの合奏が組み込まれました。私もコンダクターの勉強会に出ていましたが、初めの頃は大変難しく、ついていけないのではと思いましたが、集中する時間を取るよう心掛け、回を重ねていくうちに面白くなって

きました。今までは吟ずるだけでしたが、コンダクターと共に節調が楽になるようになり、勉強が足らなかったと気付きました。これからの声の大事に、しっかりと一歩一歩を大切にしたいと思えます。会は順調に進み、わずか二分の吟詠に上手いかな、どうしようと思死に声を出している方、手を震わせながら懸命に吟じている方、ゆり止め、ゆり上げが上手い方、場内は静まりかえって、吟ずる方も聴いている方も皆真剣です。素晴らしく美しい光景に感動しました。詩吟は奥が深いと思いました。余韻醒めやらぬまま会も終わりました。

温習会の感想

東陽町教場 青木 隆泉

十二月一日、皇太子ご夫妻に新宮様が誕生し全国的に祝賀ムードの三日、中野ゼロホールで来賓に和田精栄副幹事長、前澤龍淳婦人部長両先生をお迎えし、廿一世紀最初の温習会が開催されました。岩崎泰風先生の開会の言葉「今日も明るく、楽しくやりましょう」に続き「真善美」と会詩合吟が場内に流れ熱気が徐々にふくらんだ。第二部の無伝の部の方々も実に堂々として力強く、特に言葉がハッキリとして、迫力を感じました。第四部「武道館出場者合吟」三

本で、诗情豊かにうち揃った吟で、貴重な経験をされたと感銘です。第六部のコンダクター合奏で先生方との吟詠の調和が何とも楽しく、第七部の寿栄者合吟「不義庵」と剣舞は力強く、川中島の合戦を彷彿させ、会場は一気に盛り上がりました。「詩吟は心に豊さを与えてくれる」「吟は人なり」を実感しました。

ご来賓の先生、飯田会長をはじめ千代田の幹部諸先生の格調高く、風雅な吟詠を拝聴し、吟の楽しさと奥深さに深く感銘しました。

私も吟縁六年が過ぎました。

この温習会を飛躍台に、更に研鑽を重ね乍ら吟を楽しみたい。同時にこの気持ち、是非多くの人に伝えて輪を拡げたく念じております。どうぞ宜しくお願いします。

「教場だより」

鎌倉散策吟行会

去る十一月八日、東京駅九時十五分発で鎌倉へ、小町通りを散策し八幡宮を参拝し、段葛脇の「そば処」で昼食、この店は魚井さんのお推めです。午後は井手先生の案内で覚園寺へ、秋の深山の静けさの中で、作務衣のお坊さんの若々しく楽しい説明に、皆で笑い転がってしまいました。何でも四つの

流派の仏様がお祀りしてあり、神様、仏様、キリスト様、八百万の神々に守ってもらいたい日本人の心の基かと思えます。そのお話に感動しました。次に来るときは私が案内役となり友人や知人をお連れしたいと思いました。

鎌倉宮では、案内板の大塔宮護良親王の和歌を皆で吟じたり、岩穴の牢屋を覗き見たり、明治天皇山本五十六元帥などの書をゆっくり観賞しました。

泊まりは逗子寮、皆で呑み語りながらのお料理の美味しかったこと、その後は温習会の吟の練習に熱が入り、楽しい素敵な吟行会でした。

(丸ノ内第一教場 高橋 耀泉)

一足早い錦秋の吟行会

さる九月九・十日に箱根小涌谷荘で吟行会が開催された。東陽町丸の内第二を中心にハザマ・神田鍊水の有志三十一名の参加を得て、大変な盛況であった。

台風十五号の来襲が報じられるなか、新宿発十二時のロマンスカーは老若男女の賑わいを乗せて一路箱根へ。宿に着くや否や一風呂浴びる間も無く会議室に集合、磯田副会長・岩崎先生による「奥の細道」(平泉の一節)松尾芭蕉作「不尽を詠める歌」山部赤人作の指導が始まった。いきなり近世の

名俳人と万葉歌人が登場するなど
なかなか格調が高い。

引き続き参加者全員による独吟、
各人の吟に一人一人の思いがこも
る。いつもは定番の「桑乾を度る」
を吟じるA先輩が何と感情を込め
秋なのに「春夜」を、最長老のA
さんの「山行」には吟歴の深さ、

奥行きを感じさせられ驚かされる。
勇壮な吟、女性軍の美しい詩、
美声でうっとりするような吟と素
晴らしい独吟会で予定時刻はとう
に過ぎ、閉会の挨拶で初参加のハ
ザマ教場長は次回には十数名で参
加したいと締められました。が、参
加者全員の気持ちであつたと思う。

研修時間の厳肅さと一変して艶歌、
怨歌、演歌と女人七変化を堪能、
上がりは阿波踊り、本場出身のO
さん、踊りを習っているK氏、鉢
巻と浴衣の端折り姿も粋な副会長
等の先導による俄か指導会。
台風の余波ものかは、賑々し
い夜は更けていった。吟楽・吟楽
(東陽町教場 上田 也泉)



準師範昇格審査を受審して

東陽町教場 萩 裕山

十一月三日「文化の日」に川崎
市の「サンワークかながわ」で準
師範昇格審査を受審させて頂きま
した。奥伝以上、師範、準師範の

受審者達へ 講堂でオリエンテー
ションを受け、夫々の指定場所
で筆記、吟技、個人面接を受けまし
たが、全国から三百人近くが参集
され、その数の多さに圧倒され、
流石に『岳精会』だと感激。

前年は我が教場から五人も合格
者が出たのに、今回は自分一人で
心細かったのですが、飯田会長の
勉強会で七名の仲間がいて一安心。
そのお陰で、問題の大半は一夜
漬けながら出来たつもりでしたが、
唯一詩文に節調とアクセントを記
入する問題が半分も出来ず残念で
した。

顧みれば、定年直後に誘いを受
けて入会し早や九年、コンダクタ
ーを始めて四年、吟譜なしでは吟
詠も伴奏も出来ないのにアクセント
と節調の記入が駄目だとは、日
頃の不勉強を思い知らされたと同
時に、宗家はじめ諸先輩の偉大さ
を改めて感じました。

入会直後に母親の葬儀のため廿
数年振りに九州に帰郷した際に、
亡母が八十歳の時に八段・奥伝を
認許された許状が掲額されてあり、
長兄が四十代半ばから二教場で教
えていた頃の苦労話を聞き、それ
まで遊び心で教場に通っていた事
を悔い、せめて亡母の域までなれ
る様にと気持ちを切替えて今日に至
りました。この度の受審を期に、
再度初心に戻り苦手部分を含めて
挑戦する所存です。

最後に、飯田会長の肝煎りで一
席設けて頂き辛い一日を楽しく終
る事ができました。
有難うございました。

平常心で受審

丸の内第一教場 江口 越山

此度、教場長の指示により、準
師範への昇格試験に参加しました。
日頃、先輩の皆様が、淡々と段
位に挑戦されていることに気付い
ておりました私は、今回の審査が
特別なものではありませんでした。
たまたま、私は十一月十一日武
道館での全国吟剣詩舞道大会出場
予定メンバーとして教場から指名
され、参加しており、四月末から
十四回の練習中でありました。

飯田会長の準師範学科試験予想
勉強会と、武道館出場練習と併せ
改めて考えさせられたことは、な
るべく基本に戻るよう努力するこ
と。

詩吟修得五ヶ条



- 一、正しい発声
 - 一、正しい音程
 - 一、正しいアクセント
 - 一、的確な詩心表現
 - 一、礼節をわきまえた態度
- に挑戦して行こうと思うことで
した。

千代田岳精会の会員として今日
まで続いておりますことに、深く
深く感謝しつつ、これからも宜し

くお願い申し上げる次第です。

平成十三年度準師範の試験

丸の内第二教場 元廣 恵山

去る十一月三日、奥伝以上、師
範審査試験が「サンワークかなが
わ」で行なわれました。千代田岳
精会より準師範受験者は五名でし
た。試験は四十年前の自動車免
許試験以来の事なので、当日は少
々緊張気味でしたが、答案用紙を
頂いてからは、少しずつ堅さもほ
ぐれ時間内にどうにか提出する事
が出来ました。日頃何気なく眺め
ていたアクセント、節調も、いざ
書く段になると中々思うように書
けず、口ずさみながら悪戦苦闘で
した。

午後からは面接でしたが、私用
の為無理をお願いして、少し早め
て頂きました。答案用紙も届いて
おらず、滝沢先生もいささか勝手
が違う様でしたが「これから精
進して下さい」とのお言葉をいた
だきました。先生には大変ご迷惑
をおかけ致しました。

この試験を機会に修得手帳の、
正しい発声・音程・アクセント、
的確な詩心表現、礼節をわきまえ
た態度の基本を勉強して行くつ
もりで居ります。

これ迄に導いて下さった飯田会
長をはじめ磯田先生、岩崎先生に、
感謝！感謝！です。

『私の心に残る一詩』その六

丸の内第二副教場長 吉川 鍾風

寒 梅 新島 襄

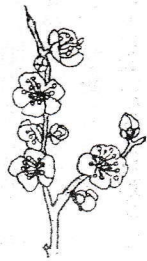
庭上一寒梅 笑侵風雪開
不爭又不力 自占百花魁

会社の同僚等から詩吟を誘われ千代田教場に入会して日も浅く、独吟の指名にビクビクしていた毎日、せめて家で練習をと声を出せば、御詠歌の様だと笑われる始末。そんな折しも、昭和六二年初めて川崎の総本部で昇段審査に臨むこととなりました。飯田教場長から吟題は母校に因んで新島襄作の「寒梅」が良いだろうとのアドバイスを頂き、来る日も、来る日も「寒梅」漬けの特訓を受けた初期の時代を懐かしく思い起こさせる詩であり、また吟詠にも少しは自信を植え付けてくれた詩でもあります。

この詩との出会いは、遙か遠い昔の学生時代に遡ります。通学時何気無く見ていた本館の車廻しの築山に建った石碑に刻まれた詩文が「寒梅」であった事を、不図思い出し納得すると共に親近感を覚えたものです。今年昇段審査会では初心に還って再び「寒梅」に挑みました。吟そのものには、殆ど進歩はな

いが、詩情を味わいながらの二分間でした。

私にとり心に残った大切な詩であり、因縁深い詩でもあります。



詩吟の世界にもITの風
千代田岳精会メーリングリスト

東陽町教場を発信源として、ITが会全体へ拡大しております。「メカに強い千代田」が更にパワーアップの勢いです。

メル友の誘い

東陽町教場では、今年の春頃からパソコン操作が話題となり、先輩格の八尾葉山さんのリードでEメールのやりとりが始まりました。やがてそれが千代田岳精会のメーリングリストの作成に迄発展して各教場を網羅した廿人を越すメンバーが登録されています。

これにより会務の連絡がなされたり、熱心な仲間から、例えば八尾さんの写真「花だより」それにつわる漢詩、短歌、俳句。磯田先生の漢詩通信（既に十三号まで連載）更に上田さんの東陽町難感など盛り沢山の通信が連日のようにメンバーに流されて、大いに勉強になり楽しんでいます。新人大歓迎、メーリングリストを登録する丈でOKです。（渋谷 辰泉）

新しい息吹き

丸の内第二教場草加に分教場開設

丸の内第二教場の太田翠山準師範が、十一月に草加市に分教場を開設されました。

場所はJR草加駅から徒歩3分という至便の所で、同教場渡辺幸子さんが店長をしているトータルファッションクリエーター「まるやま」の事務所の一部を借用し、水・金の週二回開かれており、岩崎教場長が指導に当たられ、今月入会の新会員数名の方がレッスンを受けています。

将来は、丸の内女子教場に続く女性指導者の教場への成長が期待されています。今後女子会員の増加が見込まれ、男女比率にバランスのとれた、華やかな千代田岳精会の将来図が現実味を帯びて近づくつつあります。

『新会員紹介』

◇神田教場
中村 稔氏（九月入会）

七歳の時、心臓のバイパス手術をし肺活量が少なくなり、大きい声を出して内臓を強くしたいと思ひ入会。詩吟は昔から聞くのが好きで、長距離運転をしている時など車の中でテープで聞いていた。現在大森に居住三井物産OB。七七歳。

内山 雅彦氏（九月入会）

現在、神田岩本町で理化学機器販売を。昔、昭和四八年から数年岳風流の吟を勉強していた。宴会でなにか出来れば：というのが吟を習う時の発想だったとか。入会以来皆勤、新風を送り込んでいる。五九歳。

粕川 紘一氏（十一月入会）

長老会員粕川 恒夫氏の子息、父が詩吟教室に入って、声も出て元気な顔を、毎日同じ会社で見えて、そこで私も入会したいと思うようになった。

東京駅で林教場長にバツタリ会い勧められて入会を決めた。

学生時代はギターに熱中。六十歳。



編集後記

新世紀も平和は来そうにも無い幕開けでした。貧富の差は益々拡大、加えて宗教の違いが相互の憎しみを深める。金樓の衣を纏い飽食の司教や高僧達、聖戦を唱え、殺戮を唆す指導者、人々を救済し、護るとは思えない有害無能なエセ宗教人が溢れています。（八田）